

## イントラリポス輸液の側管からの投与について

☆一部の条件下では中心静脈・末梢輸液の側管から投与可能です

### 栄養輸液



★治療薬は  
混合しない★

### 脂肪乳剤



### 側管

- 中心静脈の側管から投与可能 (BIII)
- PPN 製剤と脂肪乳剤を同時に投与することにより浸透圧を下げるができるため、血栓性静脈炎の予防に有用である (BIII)

引用；「静脈経腸栄養ガイドライン第3版」

### ★注意点★

- 中心静脈の側管から投与する場合は主治医に確認してから投与して下さい (感染リスクを評価してから側管投与の可否を判断するため)。
- 輸液単独か電解質・糖・アミノ酸・ビタミン製剤・微量元素製剤のみが混合されている場合に限り。治療薬が混合されている場合には別ルートから投与して下さい (治療薬と脂肪乳剤との配合変化が確認されていないため)。

#### ○側管投与可能○ (電解質の添加は可能)

Rp01 2019/03/04 ~ 2019/03/04 毎日-(1) 12 時~翌12 時 中心静脈 中心静脈注射 エルネオパNF【2号】 <1000>Vit微量元素 1 本 塩化ナトリウム注【10%】シリンジ【テルモ】(20ml/本) 1 本 Rp02 2019/03/04 ~ 2019/03/04 毎日-(1) 3 時間で投与 点滴 点滴注射 イントラリポス液20%(100ml/袋)★速度 1 本
---

#### ×側管投与不可× (治療薬が混注されている)

Rp01 2019/03/04 ~ 2019/03/04 毎日-(1) 12 時~翌12 時 中心静脈 中心静脈注射 エルネオパNF【2号】 <1000>Vit微量元素 1 本 フェモジン注射用(20mg/Δ)【オーハラ】 A 1 A Rp02 2019/03/04 ~ 2019/03/04 毎日-(1) 3 時間で投与 点滴 点滴注射 イントラリポス液20%(100ml/袋)★速度 1 本
---

- 投与終了後はルート内に脂肪乳剤が残らないように生理食塩液 10mL で確実にフラッシュして下さい (ルート内に脂肪乳剤が残っていると感染の原因となります)。
- 側管から投与可能な代表的な製剤は添付資料をご参考ください。

2019年3月25日 栄養サポートチーム会議承認

2019年4月15日 医局会議承認

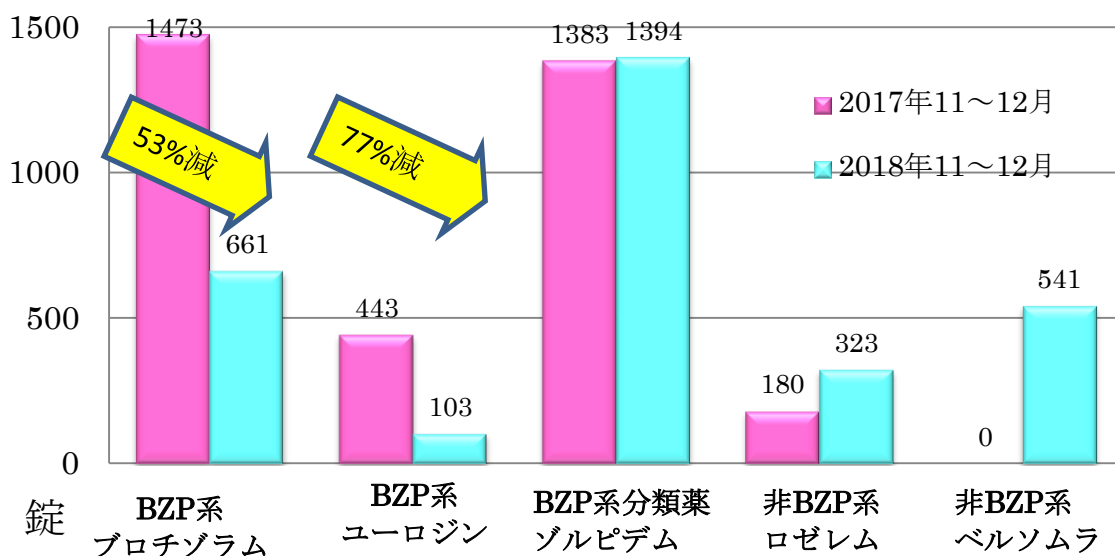
## ベンゾジアゼピン系睡眠剤の使用量の変化について

2019年4月から向精神薬処方適正化として、ベンゾジアゼピン受容体作動薬（以下BZP系薬）を1年以上同一成分・同一用量で処方している場合、処方料及び処方箋料が減算されます。

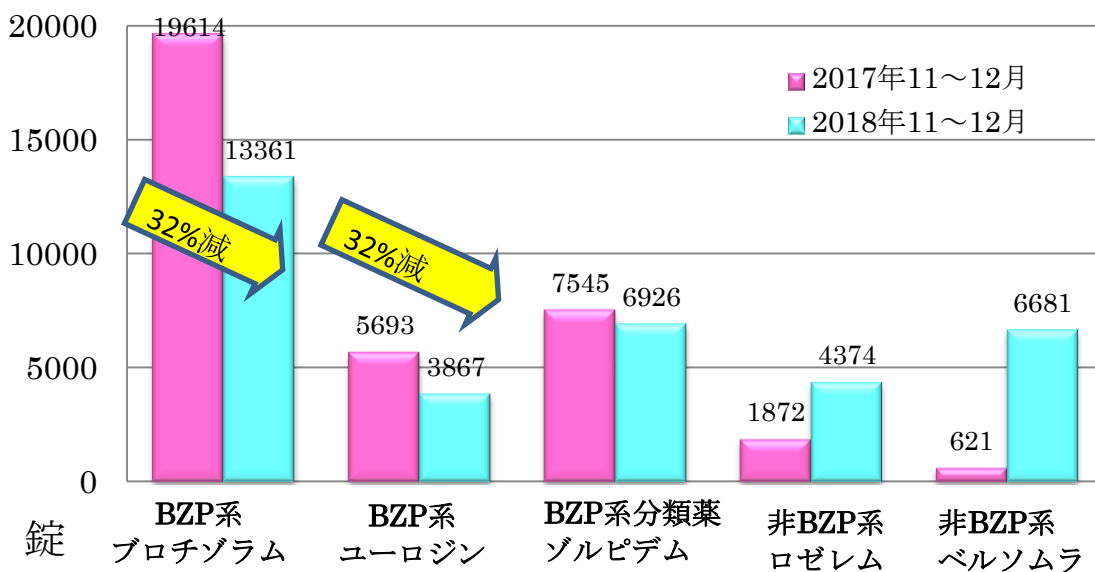
当院では2018年度病院全体でBZP系薬の使用削減に取り組んできました。

今回減算の対象とならない非BZP系薬のロゼレム、ベルソムラを新規採用してBZP系薬からの切り替えや中長時間作用型（フルニトラゼパム、ニトラゼパム、ユーロジン）の新規処方を中止するなど削減を試みてきました。その結果を報告します。

### 入院のBZP系睡眠剤処方総量の変化



### 外来のBZP系睡眠剤処方総量の変化



—今月号の目次—

- ①<今月のトピック 1>イントラリポス輸液の側管からの投与について・・・P1
- ②<今月のトピック 2>ベンゾジアゼピン系睡眠剤の使用量の変化について・・・P2
- ③<今月のトピック 3>製剤の総量と有効成分の量との間違いにご注意ください・・・P3
- ④<DI情報>副作用報告、プレアボイド情報、採用薬変更のお知らせ・・・P3・4

## 製剤の総量と有効成分の量との間違いにご注意ください

～当院での処方は原則として有効成分の量を「mg」で入力となります～

お薬手帳から処方内容を転記する際に、製剤の総量と有効成分の量との誤認による事例がありました。



お薬手帳の記載  
デパケン細粒 40% 1.5g 分3 毎食後



本来の処方内容  
有効成分の量として  
デパケン細粒 40% 1日 600mg (1.5g×40%)

転記した処方内容  
デパケン細粒 40% 1500mg 分3  
製剤の総量=1日 3.75g (1500mg÷40%)

転記した薬剤師は『デパケン細粒40% 1.5g/日』を見て、同一内容を意図して『デパケン細粒40% 1500mg/日』と転記しました。しかし当院の処方では原則として有効成分の量で入力 (mg) となっているため、2.5倍量の処方となってしまいました。

### <注意>

当院では「デパケン細粒40%」の場合、原則として有効成分の量で処方を入力することになっていますが、お薬手帳や診療情報提供書などでは製剤の総量で記載されることがあります。

慣例として「g」表示の場合は製剤の総量を、「mg」の場合は有効成分の量を表すことが多いですが、記載されている内容が製剤の総量なのか、有効成分の量なのか注意が必要です。

また、「デパケン細粒40%」を基本設定では有効成分の量「mg」で入力することとなっているため、製剤の総量を「mg」に直してそのまま入力してしまうと、意図とは異なる入力内容になってしまうので注意が必要です。

抗てんかん薬（フェノバルビタール散など）や一部の循環器用薬（ラシックス細粒）のように患者によって用量の幅の大きな薬剤や「アスパラカリウム散50%」のように高濃度のために製剤の総量と有効成分の量の差が小さい製剤では特に注意して下さい。

※当院では原則として有効成分の量で入力することにしており、文字数が許す限り製剤名の横に「mgは力価」と文言を入れ、基本設定を「mg」で入力することにしてあります。例外的に製剤の総量で入力する薬剤は「製剤量として」の文言を入れて、基本設定を「g」入力にしてあります。

## DI情報

### 【副作用報告】

協同：1件、川口：3件、西協同：2件、所沢：1件

No	薬効分類	被疑薬	副作用症状	グレード	院所	評価
1	非イオン性造影剤	オムニパーク 300 注 150mL	掻痒感 発疹	1 2	協同	可能性あり
2	アルツハイマー型認知症治療剤	ドネペジル塩酸塩 OD 錠 5m g	腹痛	1	川口	可能性あり
3	漢方製剤	芍薬甘草湯エキス顆粒	低K血症	2	川口	可能性あり
4	高脂血症治療剤	リピディル錠 53.5m g	発疹 掻痒感	2 1	川口	可能性あり
5	非イオン性造影剤	オイパロミン 300 注シリンジ 100mL	眼瞼浮腫 しびれ	1 1	西協同	可能性あり
6	経口用セフェム系抗生物質製剤	セフジトレンピボキシル錠 100mg	発疹	1	西協同	可能性あり

7	合成ペニシリン製剤	ユナシン錠 375mg	下痢	1	所沢	可能性あり
---	-----------	-------------	----	---	----	-------

### 【気になる事例の紹介～プレアボイド報告より～】

薬剤名	内容	処方の変更/今後のフォロー
テルミサルタン 20mg	K : 5.6 と高値。Cre : 1.8 テルミサルタンは高 K 血症を増悪させるおそれがあるため、やむを得ない場合を除き回避することが望ましい。 アムロジピン 2.5mg へ変更を提案。	アムロジピン 2.5mg へ変更。 血圧変動確認していく。
ドパストン	イーシー・ドパール 4.5 錠 (レボドパとして 450mg) 内服中であつたが内服困難のためドパストン注 50mg へ切り替えている。 内服→注射へ換算時は 1/2 量の投与を推奨しているため 200mg への増量を提案。	ドパストン注 50mg/日 → 200mg/日へ増量となった。 薬効発現十分か確認。
クリンダマイシン (注射) エリスロシン (内服)	併用禁忌 細胞のリボゾーム 50S サブユニットへの親和性がクリンダマイシンよりエリスロマイシンの方が高いため、クリンダマイシンの効果があらわれないと考えられる	エリスロシン中止

### 【採用薬変更のお知らせ】 (県連薬事委員会 3月報告より)

新規採用・新規試用				採用削除		
変更理由	メーカー	薬品名	薬価	メーカー	薬品名	薬価
新規採用	ファイザー	リン酸コデイン錠 5mg 「ファイザー」	9.9 円	マイラン製薬	リン酸コデイン散 1% 「ホエイ」	7.4 円 /g
	ボ・ノルデ・イスク	ライゾデグ配合注フレックスタッチ 300 単位	2,206 円/本			
新規採用 (暫定採用)	ニフ・ロ ESファーマ	アスパラカリウム錠 300mg	5.8 円			
後発医薬品販売に伴う採用変更	東和薬品	アナストロゾール錠 1mg 「トーワ」	154 円	アストラゼネカ	アリミデックス錠 1mg	403 円
後発医薬品販売に伴う限定薬取扱変更	扶桑薬品	ナルフラフィン塩酸塩 OD 錠 2.5 μg 「フソー」	549.5 円	大日本住友	レミッチ OD 錠 2.5 μg	1340.9 円
	第一三共エスファ	ゲフィチニブ錠 250mg 「DSEP」	2662 円	適応が異なるため院外での先発医薬品の取り扱いは削除せず、協同病院院内では後発医薬品を取り扱う		
名称変更	明治製薬ファルマ	ヒアルロン酸 Na 関節注 25mg シリンジ 「明治」	334 円	明治製薬ファルマ	アダントディスボ関節注 25mg	334 円
新規使用	日本イーライリリー	シアリス錠 10mg/20mg	薬価なし			

情報の提供・お問い合わせは、埼玉協同病院薬剤科 DI 室 (内線 9404) までどうぞ  
担当 牧野・中村・山田・木村・相良